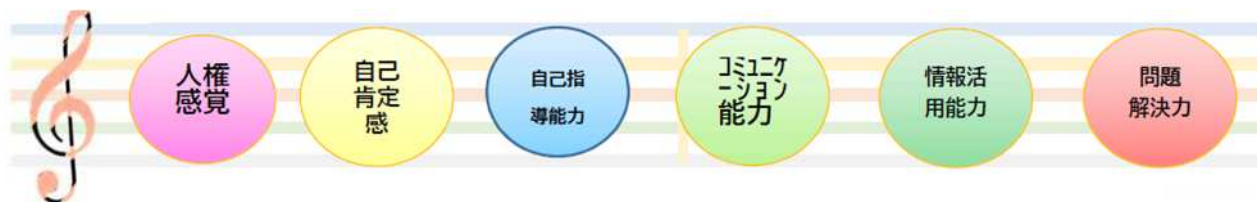




令和5年度 第5号
常磐野小学校 校長室だより
令和5年9月1日発行 文責 清川 秀一

学校教育目標

つながり、深まり、未来をつくる子



全く涼しくならない中、2学期が始まりました。今年の夏は異常であるという言葉は、もう使い古された言葉のように感じます。そのような中ではありますが、運動会に向けての取組も始まりました。昨年までのように学年ごとの開催ではなく、全校が一堂に集まります。また、入場制限をなくし、色別対抗で演技や競技で盛り上がる行事にしようとしています。子どもたちの体調面にも、十分注意していきたいと思います。

さて、先日、本校の卒業生でバレーボール選手の高橋壘さんと高橋藍さんのご兄弟が子どもたちのために来てくれました。子どもたちからは緊張するときにとどうしたらよいかということや、負けているときにどうやってチームを盛り上げたらよいかなどの質問があり、丁寧に答えていただきました。また、壘さんからは小学校時代に苦手なことがあったけれど、がんばったことで、できるように成長することができたこと、藍さんからは好きなことにチャレンジして、友達を大切にしてほしい、というメッセージをいただきました。

大変お忙しいお二人ですが、子どもたちのために少しでも力になればというお気持ちから実現しました。それは常磐野小学校を母校として大切に思う気持ちが彼らの中にあるからでしょう。そして、その気持ちにより今の子どもたちと繋がったことは、また新しい何かを生み出したかもしれません。

常磐野小学校の校歌の3番に「白い雲わく大空は 世界に続く広い道」という言葉があります。私が一番気に入っている一節です。常磐野小の運動場から空を見上げると、自然にこの歌詞が浮かびます。高橋選手も「今でも校歌を歌えますよ」と言っておられましたので、小学生の時に空を見上げながら夢を描いたのかもしれません。校歌は過去と現在、そして未来をつなぐ大切なキーなのではと思いました。常磐野小の中で子どもたちの繋がりを育み、そして常磐野小に関係する人々と繋がり、生み出された豊かな繋がりは、何物にも代えがたい価値であると考えます。

